



◆ 1人1台端末は、iPad と Chromebook に決定！

国のGIGAスクール構想の標準仕様を満たすパソコンは、iPad（アイパッド）、Chromebook（クロームブック）、Windows10搭載パソコンの3種類です。この中から、笠間市は、小学校低学年でも使いやすいiPadと、協働学習に適したChromebookの2種類を選定し、子供の成長に合わせて適切な機種を使うようにしました。

◆ 小1～小5年生はiPad、小6～中3年生はChromebook！

6年生で機種が変わります。なぜ機種を変えるのか、次のようなことから決定しました。

○ 小中一貫教育でICT教育を推進するため

みなみ学園義務教育学校をモデル校としてスタートした笠間市の小中一貫教育は、5・4制を基本としています。5・4制は、義務教育9年間のカリキュラムを5年と4年に区切って編成します。以下の表は、みなみ学園が作成したICT教育のカリキュラムです。このカリキュラムを市内全小中学校で実施します。カリキュラムのねらいを達成するために最適な機種は、小1～小5年生でiPad、小6～中3年生でChromebookであると判断しました。

要素	BG（ベーシック・グレード）			HG（ハイ・グレード）			
	低学年	中学年	5年生	6年生	7年生(中1)	8年生(中2)	9年生(中3)
活動スキル	○情報を集めたり、発信したりすることに関わる基本的な活動をマナーを守って行うことができる。	○情報を集めたり、発信したりする際にコンピュータを含む情報手段を適切に活用することができる。	○情報を集めたり、発信したりする際、適切な手段を選んで活用することができる。	○情報を集めたり、発信したりする際、適切な手段を選んで、効率よく活用することができる。			
探究スキル	○情報を編集(整理・分析や表現)する際、与えられた視点や観点のもとで取り組むことができる。	○情報を編集(整理・分析や表現)する際、学びの見通しを持って視点や観点を理解し、試行錯誤することができる。	○情報の収集・編集(整理・分析や表現)・発信の過程を自ら組み立て、状況に応じて評価・改善することができる。	○受け手を意識した情報の収集・編集(整理・分析や表現)・発信の過程を自ら組み立て、状況に応じて評価・改善することができる。			
プログラミング	○問題の解決には手順があることを理解する。	○問題解決や表現活動の際、コンピュータに与える論理的な手順をさまざまに工夫できることを体験的に理解する。	○コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値を社会や自らの将来に関連づけて考えることができる。	○情報技術の見方・考え方を働かせ、課題を設定・解決するとともに、未来の創り手として、情報技術の価値を社会や自らの将来に関連づけて考えることができる。			
情報モラル	○自他の情報を大切にし、ルールを守って安全に情報手段を使用しようとする。	○情報手段の利便性と危険性を理解し、自他への影響を考えて適切に使用しようとする。	○情報社会の価値や課題を認識し、情報手段の適切な活用や啓発に積極的に取り組もうとする。	○情報社会の価値や課題を認識し、情報手段の啓発に積極的に努めることができる。			
1人1台端末	iPad			Chromebook			

○ パソコンの寿命を考慮したため

パソコンの寿命は、故障のリスク、性能の劣化などから、一般的に5年ほどと言われています。

そのため、小学1年生からパソコンを使った場合、6年生で新しいパソコンに変えることがベストタイミングです。このタイミングを生かし、iPadからChromebookに変えることで、協働学習をより強化するなど、活用のレベルアップを図ることができるのです。

◆ iPadの特徴

- 起動が速くトラブルが少ない
- スマホと同様の操作性
- 直感的に扱える使いやすさ
- 写真や動画が扱いやすく編集も簡単にできる
- 本体の重さは483gと軽い
キーボードを付けても約1100g程度である
- 教育用の無料アプリが豊富



iPadを使うみなみ学園の児童

◆ Chromebookの特徴

- アメリカ、カナダ、スウェーデン等では、教育用PCとしてシェア1位を獲得
- 起動が速く快適に動く
- バッテリー保ちが非常にいい
- 机からの落下や屋外授業での使用に耐える堅牢性、耐久性
- 防滴設計のキーボードがついている
- インカメラ、アウトカメラを装備している

液晶ディスプレイが360°回転し、ノートPCにもタブレットにもなる

